歴史地震
第 30 号(2015) 43-49 頁
受付日 2015/01/17, 受理日 2015/03/20

［資料］1925 年北但馬地震の供養塔・記念碑と関連行事について

京丹後市教育委員会文化財保護課* 新谷 勝行

Earthquake Memorial Pagoda, Monuments, and Ceremonies for the 1925 Kitatajima Earthquake

Katsuyuki SHINTANI

Cultural Properties Protection Section, Kyotango City Board of Education,Kuchiono 226, Omiya-cho, Kyotango, Kyoto 629-2501, Japan

The Kitatajima earthquake of May 23, 1925, devastated Toyooka and surrounding areas in the Hyogo Prefecture. I briefly describe five memorial monuments, two related statues, and two annual religious ceremonies in the affected areas. These ceremonies show that the local people know the necessity in telling future generations the lessons learned from the earthquake disaster.

Keywords: Kitatajima Earthquake, Earthquake Monuments, Memorial to Tell the Earthquake.

§1. はじめに

1925(大正 14)年 5 月 23 日午前 11 時 10 分に，兵庫県港村字田結(現在の豊岡市田結)を震源として発生した北但馬地震は，震源地に近い港村や城崎町をはじめ，円山川が形成した沖積平野上に立地し地震発生時に大きな揺れが生じた豊岡町を中心に死者 428 人，全焼家屋 2,000 棟余り，全壊家屋 1,200 棟余りという大きな被害をもたらした[京丹後市史編さん委員会 2013].

地震直後に火災が発生した城崎町・豊岡町は，その後の町並みの復興に際して対照的な手法をとった[越山・室崎 1997, 1998]. 城崎町は，水害や火災といった災害に対して配慮しながら震災以前からの温泉街を復興し，現在も中心部を流れる大峪川の玄武岩による護岸や川にかかる鉄筋コンクリート橋に震災復興の姿が残る. これに対して豊岡町は，震災以前からあった耕地整理計画による市街地復興を目指し，兵庫県の「防火建築補助規定」による補助金交付もあって鉄筋コンクリート造りの復興建築が大開通りや元町通りから宵田通り沿いに造られ現在も残る[兵庫県但馬県民局県土整備部 2007, 豊岡駅通商店街振興組合 2014,植村 2014,浅子 2014].

本地震の発生から 90 年が経過する中，これら復興建築群は震災復興を伝える貴重な資料といえる. これに対し，直接的に震災の記憶を伝え，犠牲者の慰霊を行う供養塔・記念碑や関連行事に関する研究は，北但馬地震の2年前に発生した関東大震災を代表に多くの先行研究が見られるものの，北但馬地震に関するものは，地元の情報誌や報道記事等で個別に紹介されたのみで，これまで全体の様相は把握できていなかった[公益財団法人但馬ふるさとづくり協会 2011,2013].

本稿では，北但馬地震に伴う供養塔・記念碑の所在と，関連行事について調査を行った概要を報告し，本地震における特徴を紹介するものとした.

§2. 北但馬地震の供養塔・記念碑

北但馬地震後に建立された供養塔・記念碑は 5 ヶ所確認している. 特に被害の大きかった城崎町・港村(いずれも現在の豊岡市)に分布する. また関連するものとして，震災当時の城崎町長であった西村佐兵衛を顕彰した銅像があり，あわせて紹介したい.

以下，建立年代順に紹介する.

2.1 城崎温泉寺墓地 北但地震火災殉難者精霊塔(兵庫県豊岡市城崎町湯島)

(水輪表面)「(梵字)観音」
(水輪裏面)「(梵字)地蔵」
(地輪正面)「北但地震火災殉難者精霊塔/勅持賜大陽眞鑑禅師/総持石禅敬書」
(台座正面)「大正十四年五月/二十三日北但地/大震家屋倒潰無/筭火災尋起城崎/豊岡等市邑槩帰/焦土殉難者約五/百人其惨状絶言/語矣神戸地方篤/志者相謀特造立/此宝塔塔下納舎/利永弔其精霊茲/於一周忌辰挙行/開眼式以荘厳無/上菩提道云爾」
(基礎正面)「建立発願人/服部一三/大谷吟右衛門/直木政之介/内村直俊/汐川泰仙」

*〒629-2501 京都府京丹後市大宮町口大野 226
電子メール: k.hashimoto-74@city.kyotango.lg.jp

図 1 北但地震火災殉難者精霊塔
Fig.1 Kitatajima Earthquake Fire Martyrs' Memorial
(2013 年 3 月筆者撮影)

「(石塀内面銘)精霊塔寄進/伊藤長次郎/乾新兵衛/鑄谷正輔/井上浪蔵/石井兵造/乾鼎一/服部一三/橋本関雪/花木三二郎/範多愛子/畑　茂/浜風文子/西田嘉兵衛」「堀江峰子/小曾根喜一郎/岡崎藤吉/大谷吟右衛門/小野権四郎/大谷一恵/大西甚一平/太田保太郎/岡崎豊子/大塚伸次郎/大谷多聞/大野花子/岡田徳蔵/若林与左衛門」「若林与兵衛/若田虎三郎/川崎武之助/川西清兵衛/大橋一恵/加納治郎左衛門/川村貞次郎/鹿島房次郎/勝田銀次郎/河原春枝子/田村新吉/田村市郎/多木粂次郎/竹田龍太郎」「武岡豊太/瀧川英一/瀧川儀作/竹林嘉七/谷多実子/田中甚介/髙倍権太郎/丹波謙蔵/丹波辰蔵/丹波一彦/丹波孝三/丹波丈蔵/丹波つね子/髙橋虎太郎」「田中太蔵/園田藤吉/曽根正命/鶴崎平三郎/中村準策/中村五兵衛/中江忠兵衛/滑川貞次/永留小太郎/直木政之介/直木三郎/直木憲一/直木孝子/直木絹子」「武藤山治/村上関蔵/室谷千恵子/内村直俊/上田万次郎/弘世正二郎/久保雪子/山邑太左衛門/柳田久次郎/前田石子/松方幸次郎/万俵市松/藤田松太郎/藤井豊之助」「呉錦堂/小西房子/榎並充造/頴川知嘉子/有馬市太郎/浅井益次郎/澤田清兵衛/澤野定七/貞永省三/澤田亀之助/澤田善一郎/菊本弥三郎/清村行子/品川源兵衛」「柴田保造/正田房次郎/柴田定吉/百崎俊雄/森時太郎/森垣亀一郎/菅野憲一/菅音次郎/末正久左衛門」

「(五輪塔背面石柱銘)神戸修養会」

北但馬地震の火災が及ばなかった温泉寺薬師堂の南西側，墓地の一画にひときわ目立つ高さ 3.4mを測る五輪塔である．震災後，もっとも早く建立された．

地輪正面には，曹洞宗第 11 代管長で総持寺管首の大陽真鑑禅師(新井石禅)による「北但地震火災殉難者精霊塔」銘がある．塔基礎正面には，建立発願人として服部一三ほか 4 名の氏名が刻まれる．五輪塔が立つ長辺 4.43m，短辺 3.88mの石製基礎を囲うように造られた石塀には，「精霊塔寄進」として建立発願人を含む 106 人の氏名が，また五輪塔背面側に位置する石塀と石塀の間の石柱には神戸修養会の名が刻まれる．

建立発願人のうち服部一三(1851-1929)は，元兵庫県知事で，当時は貴族院議員，日本地震学会の初代会長であった人物である．大谷吟右衛門は兵庫農工銀行頭取，直木政之助は日本燐寸製造株式会社社長，ほかの寄進者も確認できた限りでは兵庫県南部の有力者とその家族が大半である．

本塔が建立された震災 1 年後の城崎は復興途上であり，復興に優先して石塔を建立する余裕はなかったと推定される．本塔建立の経過に関して『神戸又新日報』大正 14 年 6 月 19 日の記事には，「震災死亡者の納骨塔を城崎町に　服部前知事等の発起で」という見出しで「過般神戸市の実業家直木政之介氏は親しく其状況を視察し一人同情の念を高め茲に同氏の知人前本県知事服部一三，農工銀行頭取大谷吟右衛門，内村直俊，汐川泰仙の諸氏発起となり城崎町に納骨塔を建設する事とし，焼け跡に散乱せる遺骨の取纏め方城崎町長に依頼して来た，場所は未だ未定であるが多分温泉寺若くは薬師境内に建設する予定であると」とある．残念ながらその後の経過は不明であるが，同紙には震災一周忌に建塔除幕式と追悼会が行われた記事がある．これにより本塔は，震災から 1 ヶ月を経過しない間に兵庫県南部の有力者により発起され，震災一周忌までに建設されたことがわかる．

寄進の経過，寄進者の詳細については，機会を改めて検討したい．

2.2 表彰記念碑(兵庫県豊岡市気比)

(正面)城崎郡港村/第五部消防組/大正十四年五月二十三日北但地方大震/火災ノ際各員ハ自己ノ災厄危険ヲ顧ミス/協力克ク統制ヲ保チ村内各所将ニ火災/起コラントスルヤ勇敢機敏之カ警防ニ努メ人心/安定ヲ図ル等克ク其本来ノ職務ヲ完/フシタルハ功労授群ニ付金壹封賞与ス/大正十五年五月一日/兵庫県知事従四位勲三等山縣次郎(印)

表彰記念碑/

城崎警察署長　山本靖一書

(裏面)顧問　島長造/小頭　正賀昇/仝　脇野定五郎/震災当時　仝　宮代甚太郎/彫刻　有志/石　岩井作五郎/岡野諒吉/工　川崎捷吉/前場芳松

(左側面)消防創立/明治四十四年七月

図 2 表彰記念碑(2013 年 5 月筆者撮影)
Fig.2 Commendation monument

(右側面)大正十五年八月三十一日建之

気比公民館前に立つもので，石碑の規模は，高さ 170 ㎝・幅 70 ㎝・厚さ 30 ㎝，台座幅 110 ㎝・奥行 70 ㎝・高 30 ㎝，基礎高さ 80 ㎝である．地元での聞き取りによると，もとは花崗岩の柱と鎖で囲われていたようである．

気比の対岸の津居山や城崎町・豊岡町では，地震直後に火災が発生し大きな被害が発生した．気比では，地震発生時に城崎郡港村第五部消防組が，団員自身が被災しながらも火災の発生を食い止めることに成功し被害を少なくしたことから，大正 15 年 5 月 1 日に兵庫県知事から表彰を受けた．これを記念して建立されたものであり，通例の震災供養塔や記念碑とは異なる．地元での聞き取りでは，明治 25 年に導入された龍吐水(いわゆるガッチャンポンプ)からガソリンポンプへの更新が行われたところで，震災当時，これが威力を発揮し，火事となった家は2軒のみであったという．

2.3 震災記念碑(兵庫県豊岡市田結)

(表面)震災記念碑

(裏面)大正十四年五月二十三日午前十一時十一分未曽有ノ強震但馬地方ヲ震フ当区/震源地トシテ被害近郷ニ比ナシ死者七人傷者四十六人全戸八十三ノ内全壊六十七半壊/十五破損一也時恰カモ養蚕期トテ各所ニ出火セシモ区民一致防火ニ努メ未然ニ止ムル然レ/ドモ部落一円戦場ノ如キ惨状ニテ手ノ施シヤウナク取敢ヘズ小井戸浜仲田犬坂ノ三カ所ヘ各/自避難ス間モナク時難収拾ノ為復興委員長磯崎為造氏外六名ノ委員ヲ選任シテ陣容ヲ整ヘ/植付養蚕等ノ共同作業ヲ行ヒ又カヤノ道路改修電話架設精米作業機購入等ヲナシ以テ震災/復興事業モ着々歩ヲ進ム 因テ今村山崎古島ノ三博士来区精査ノ結果当地ヲ震源地ト断定セ/リ其ノ後ニ於テモ研究調査ノ為著明ノ学者頻々ト来区ス

(右側面)昭和十五年十月建之

図 3 震災記念碑 (2013 年 1 月筆者撮影)
Fig.3 Earthquake disaster monument

北但馬地震の震源地に近い田結の公民館横にある高さ 163 ㎝，幅 55 ㎝，奥行 45 ㎝の石碑である．石碑は，六地蔵などと並び擁壁上に立つ．石碑直下の擁壁には，磨滅した裏面の碑文を翻刻した銘板がある．このほか，隣接する公民館には，碑文翻刻を記した額が保管されているが，両者で内容が異なる．改めて碑文の確認を行ったところ，後半の二行の翻刻に誤りがあることがわかった．石碑裏面の銘文には，倒壊した家屋からの出火を食い止めたこと，地区内 3 ヶ所に分かれて避難したこと，復興委員を選任して震災復興へ進んだこと，著名な学者が来区しこの地を震源地と断定したことなどが記される．記念碑が建立された昭和 15(1940)年 10 月は，北但馬地震発生から 15 年目のことである．

現在の田結地区は，約50軒，約150人よりなるが，震災当時は 83 軒あったという．地震発生直後、まず消火を優先したため，火事による死者はなく，圧死者7名のみであった．

2.4 記念碑(兵庫県豊岡市津居山)

(台座正面)此の鳥居の一部は大正十四年五月/北但大震災まで八幡神社参道，/八幡町森津氏宅附近に建立されて/いたものである/震災の面影をとどめるものとして/茲に永久保存する/昭和六十一年五月吉日/津居山公民館

津居山公民館前に立つものである．折損した鳥居を台座上に固定したものである．鳥居の残存高 110 ㎝・径 34 ㎝，台座は幅 80 ㎝・奥行 80 ㎝・高さ 50 ㎝である．

図 4　記念碑　(2013 年 4 月筆者撮影)
Fig.4 Monument

図 5　慈母観音　(2013 年 3 月筆者撮影)
Fig.5 Affectionate mother Kannon

2.5 温泉寺奥の院　慈母観音（兵庫県豊岡市城崎町湯島）

（台座銘文）慈母観音建立の辞/慈母観音建立の功徳主　牛山綾野女史は，当湯島の地に父，/安田信二　母，みね夫妻の長女としてご出生．/大正十四年五月二十三日午前十一時十一分　当地方を襲っ/た北但大震災にて　母みね様二十四歳にて横死．/綾野女史二歳の時なり．/この震災の横死者は城崎町だけで二百七十二名もの尊き生/命が奪われました．/女史長じて実業家牛山馨六氏とご結婚　二男二女の子宝に/恵まれる．子女もそれぞれ各分野にてご活躍．幸福な生活を/楽しんでおられますが，二歳の時に亡くなった実母の事を忘/れがたく，慈母観音を建立し亡母の追善並びに震災で亡くな/られた多くの方々の供養のため，また災害の熱い平和な世の/中のために建立されたものなり．/願わくばこの善行を納受し慈眼を垂れ給わんことを．/南無大慈大悲観世音菩薩/観音妙智力　慈眼滋衆生　福聚海無量/温泉寺　住職/僧正　祐泉　識/平成十九年　十月二十八日

城崎ロープウェイの山頂駅下車すぐの温泉寺奥の院に所在する観音菩薩立像である．像横の銘板に建立の経過が記される．北但馬地震関係では最も新しい供養塔であり，震災で亡くなった母親追善および震災で亡くなった方の供養のために個人建立されたものである．温泉寺 HP にも紹介されている。

図 6　西村佐兵衛銅像　(2013 年 6 月筆者撮影)
Fig.6 Nishimura Sahei bronze statue

2.6 西村佐兵衛像

（銘板正面）銅像建立にあたって/

一九二五年五月二十三日昼前，北但馬に　直下型大地震が起/こり，城崎町（当時人口三四一〇人）湯島地区では殆どの家が倒壊/し，数分後，あちこちから出た火は見る見る猛炎となり，全町/を焼き尽くし，死者二百七十二名，負傷者一九八名を数え惨た/んたる有様となりました．/時の町長，西村佐兵衛氏（一八八一～一九六一）は全焼した我/家を顧みず，ダブダブのオーバに，たすきを掛け，袖をまくり/あげ，足には大きな地下足袋という珍奇な姿で，メガホン片手/

に声をからして焼け野を廻り，呆然としている人人を慰め励ま/しました．/　毎年のように，床上浸水を繰り返す大谷川の洪水対策として，/町の地盤を一・〇～二・五mかさ上げし，川の巾と深さをそれ/ぞれ二倍以上に道路は二～三倍に拡げて直線化，要所に防火家/屋地帯を設け，水火災に備えました．/　小学校は城崎町，内川村の組合立とし，当時，兵庫県下でも/五指に足りなかった鉄筋コンクリートの三階建校舎を建て，行/き届いた教育のためには一クラスを四〇人以下にしなければと/教室をやや小型にし，理・図工・音楽・家庭科などの特別教室/を造り，理科の標本，実験用具をはじめ工作用のモーター旋盤，/鋸，かんなの機械，ドイツ製ピアノなど一流の教具を備え付け/ました．/　町長退任後は観光事業に力を注ぎ，水上飛行機での遊覧や，/城崎↔大阪間定期航空便，日和山行バスなどを運行しました．/県会議員となって竹野峠の道路建設の基礎をつくり，全国温泉/協会副会長に推されて，全日本観光事業の発展に寄与し，又山/陰海岸国立公園の実現には期成同盟会長として長年にわたり尽/力し一九六一年十一月に昇格が決定しました．しかし翁は，そ/の報らせの前，十月十二日八十才で逝去しました．/　灰をかき，区画を整理し，各界権威の設計による六つの温泉/浴場，学校，役場などが次ぎ次ぎに実現しましたが，その困難/苦心は筆舌に尽くせず而も一九三〇年代の大恐慌下に見違える/程立派に復興し，繁栄の礎を築き得たのは，非凡な識見と豊か/な才器を以て事業に献身する翁のまわりに，結集した　町・区会議員や多くの町民，それを指導し援けた前町長ら先輩たちが，/復興第一と，将来展望に立って，自由な発想と活発な討議を尊/重し，心から力を合わせた賜物です．/　震災六十周年を迎え，当時の町民と西村翁の労苦を偲び，そ/の心と功を鑽仰し，顕彰するため六百余の方方の賛同を集め，/この銅像を建立しました．/

一九八五年五月吉日/西村佐兵衛翁顕彰会/

（台座表銘板）徳　西村佐兵衛翁/　頌

（台座裏銘文）北但大震災復興の功績を/顕彰し町民この銅像を建てる/一九八五年五月吉日/顕彰会会長　石田弘/顧問　西村六左衛門　　岸本源六/鳥谷武一　谷口徳一/藤原金太郎　谷口長次郎/実行委員　古池信一　安田庄七/和田秀吉　田渕喜義/椿野博　谷垣六郎右衛門/入江昭　片岡恒三/久保田庄吉　岸田美輝/秦忠雄　田岡茂/日生下愼一　井上哲郎/三宅美佐子　三宅綾子/谷垣悦子/原型師　高岡市　喜多敏勝/施工者　高岡市本郷一丁目　秀正堂

鋳銅製の像であり高さ約 170 ㎝，台座は幅 135 ㎝・奥行 136 ㎝・高さ 113 ㎝である．温泉寺前の駐車場から墓地へ向かう側に立地する．銘文にあるように西村佐兵衛は，北但馬地震発生時の城崎町長であり，震災復興に際してリーダーシップを発揮した人物である．直接の記念碑・供養塔ではないが，関連するものとして紹介する．

§3．関連行事について

北但馬地震が発生した 5 月 23 日に関連行事が行われている事例として，田結のお千度参りと，城崎温泉寺北但地震火災殉難者精霊塔前で行われる震災記念法要がある．

3.1 田結のお千度参り

豊岡市田結では，地区内にある震災記念碑（2.3 に既出）の前ではなく，氏神の八坂神社にて関連行事が行われている．八坂神社は，集落の中の高台にあり，田結区の津波避難場所にも指定されている．丁字屋治兵衛が京都から勧請したと伝え，境内には「天明三年卯九月吉日　願主瀬戸村米屋平右衛門」（1783 年）年銘の石燈籠があるため，18 世紀後半には所在したことがわかる．

田結のお千度参りは，朝 6 時に八坂神社に集合し，参拝後に，本殿前の木箱に置かれた「御千度」と記された木札をもち，本殿周囲を一周まわるごとに一枚の札を木箱に入れ，参拝者全員で 1,000 周する行事である．1 年のうち正月 2 日の成人式と二百十日（9 月 1 日前後）とともに 5 月 23 日に行われている．

「御千度札」は，長さ 15～20 ㎝，幅 1.5～2 ㎝の竹製，墨書があるものが多い．「御千度」「為消火祈願」「消防組」などの墨書がある．木札は，前日に，「夜番」の家（集落各戸を持ち回り，区長の用使いを行う家，少し前まで 21 時と 4 時に火の用心に集落をまわっていた）の人が，お千度札を 1,000 枚数え，木箱に入れて準備を行う．

当日は，放送等で朝 6 時からと案内する．実際には午前 5 時すぎから始める方があり，6 時前後には終了する．本殿の周囲をまわる参加者は，手元の札がなくなると列を離れ，千枚の札がすべて木箱に納まると終了する．最後に本殿前で区長の挨拶があって解散し，夜番の家の人が後片付けを行う．

3.2 震災記念法要

5 月 23 日に城崎温泉寺の北但地震火災殉難者精霊塔（2.1 に既出）前で行われる法要である．豊岡市が主催し，城崎町内の 4 ヶ寺（温泉寺・本住寺・極楽寺・蓮成寺）の住職に依頼して法要が行われる．当日

図 7　田結のお千度参り (上:2013 年 5 月, 下:2014 年 5 月, いずれも筆者撮影)
Fig.7　Tai no Osendomairi

は 9 時 30 分より豊岡市城崎消防団による防災訓練が行われ, 消防団員は訓練終了後に温泉寺境内に集合し法要に参列する. 法要は, 午前 11 時前後より始まり, 参拝者の焼香の後, 消防団長の焼香がある. 消防団は, 団長の焼香にあわせて脱帽・礼を行う. 11 時 9 分にはサイレンが吹鳴され, それにあわせて参拝者は黙祷を行う. サイレン吹鳴後に法要は終了する. 消防団は退席し, 町内各所を消防車でまわる. なお精霊塔前の祭壇は夕方 4 時ころまで設置される.

§4. おわりに

1925 年北但馬地震に関する供養塔・記念碑と関連行事について紹介した.

供養塔・記念碑は5例と数少なく, その分布は震源

図 8　震災記念法要 (2013 年 5 月筆者撮影)
Fig.8 Earthquake disaster memorial commemoration service

地の港村・城崎町周辺に限られる. 震災翌年に城崎温泉寺の北但地震火災殉難者精霊塔(2.1)と気比の表彰記念碑(2.2)が建立されるものの, その後は 15 年後の田結の震災記念碑(2.3)まで見られない. ほかは近年の建立によるものである. なお被害の大きかった豊岡(当時の豊岡町)は, 寺院を中心に電話による聞き取り調査を行ったが, 供養塔・記念碑ともに所在を確認できなかった.

また北但馬地震では, 震災復興建築群が数多く残されているものの, 濃尾地震・関東大震災・北丹後地震に見られる震災を記念した建物(震災記念館)は建築されていない.

しかしながら5月 23 日に行われる関連行事は田結と城崎の 2 ヶ所で現在も行われており, 災害の教訓を後世に伝える意識の高さがうかがえる.

謝辞

現地調査にあたっては, 田結区の島本又治氏, 島崎邦雄氏, 気比区の岩田幸夫氏, 宮代實也氏, 温泉寺, 豊岡市役所城崎支所の関係者の皆様にお世話

になり，佛教大学の植村善博先生には現地にてご教示をいただきました．また北但馬地震に関しては石原由美子氏，浅子里絵氏にご教示いただいたほか，『神戸又新日報』の閲覧には神戸市文書館にお世話になりました．記して感謝します．

対象地震：1925 年北但馬地震

文 献

浅子里絵，2014，昭和初期兵庫県豊岡の市街地の変容-北但馬震災（1925）を契機として-，佛教大学大学院紀要文学研究科篇，42，47-62.

兵庫県但馬県民局県土整備部，2007，但馬の近代化遺産ガイドブック，45pp.

越山健治・室崎益輝，1997，大震火災都市における復興計画に関する研究-北但馬地震における城崎町，豊岡町の事例-，平成 9 年度日本建築学会近畿支部研究報告集，493-496.

越山健治・室崎益輝，1998，大震火災都市における復興計画に関する研究-北但馬地震における城崎町，豊岡町の事例-，地域安全学会論文集，8，310-315.

公益財団法人但馬ふるさとづくり協会,2011,裏路地探検,T2,Vol79,10-11.

公益財団法人但馬ふるさとづくり協会,2013,裏路地探検,T2,Vol86,10-11.

京丹後市史編さん委員会,2013,京丹後市の災害，京丹後市役所,278pp.

豊岡駅通商店街振興組合,2014,見て歩き MAP 改定版（パンフレット）.

植村善博，2014，1925 年北但馬地震における豊岡町の被害と復興過程，佛教大学歴史学部論集，4，1-18.